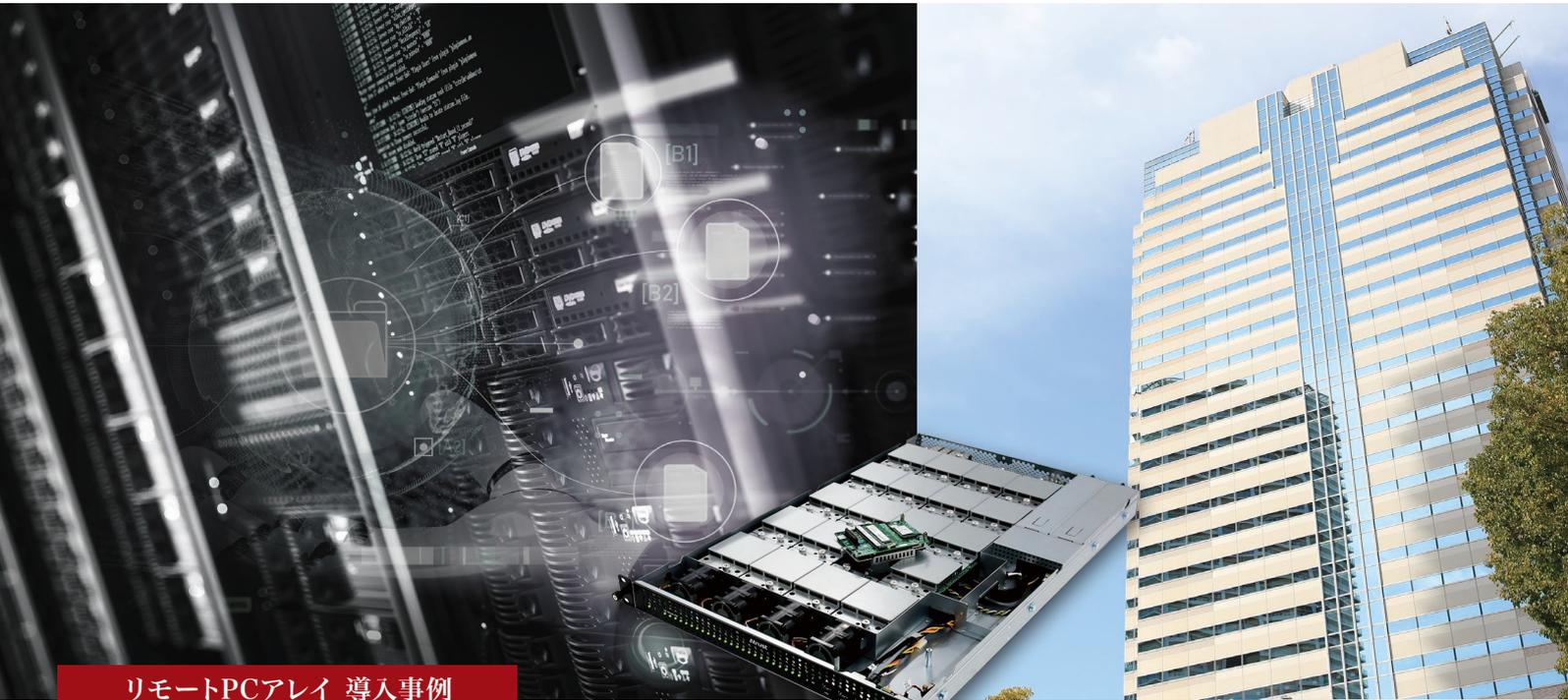




リモート PC アレイ 導入事例

BIPROGY 株式会社

BIPROGY Inc.



リモートPCアレイ 導入事例

Windows 11対応と24時間365日の安定稼働を実現。 RPA専用インフラとして「リモートPCアレイ」がもたらした運用管理の革新

Windows 10のサポート終了を見据えた、 インフラ全面刷新への決断

BIPROGY株式会社では、2017年からRPA(Robotic Process Automation)ツールを活用した業務自動化に取り組んできました。その実行基盤として、当初は他社の高密度PCソリューションを採用し、グループ会社の保守・サポートのもと、安定した運用を続けてきました。

しかし、導入から数年が経過し、2つの大きな課題が浮上しました。一つは、採用していたハードウェアの保証が順次切れる時期に差し掛かっていたこと。そしてもう一つ、より深刻だったのが「Windows 11への対応」です。

情報システムサービス部 企画室 企画二課 熊谷様は次の様に振り返ります。

「既存の高密度PCソリューションがWindows 11をサポートしていないことが判明しました。2025年10月に予定されていたWindows 10のサポート終了を考慮すると、RPAを継続して安定稼働させるためには、インフラの全面的な刷新が不可避の状況となりました。」



BIPROGY株式会社
情報システムサービス部
企画室 企画二課
熊谷 友里氏

この差し迫ったデッドラインを機に、同社は次世代のRPA専用インフラの選定を開始しました。

24時間365日止まらないRPAを、 いかに遠隔で管理するか

刷新にあたり、同社が直面していた最大の課題は、RPA特有の運用サイクルとメンテナンス性にありました。

熊谷様は次のように話します。

「当社のRPAは、各部門の定型業務を自動化する『クライアント型RPA』として運用されています。最大の特徴は、夜間や休日を問わず24時間365日体制で処理を行い続ける点にあります。そのため、一般的なPCをオフィスのデスクに並べて稼働させるような形態では、物理的なスペースや電源、管理面で限界がありました。」

さらに、OSレベルの課題も無視できませんでした。

「Windows OSの特性上、稀に発生するフリーズは避けられません。RPAが止まることは業務の停滞を意味します。データセンターへ直接足を運ぶことなく、オフィスの自席やリモート環境から、物理的な強制再起動や電源操作ができる仕組みが、運用継続のために必須条件となっていました。」(熊谷様)

クラウド、小型PC、仮想サーバー——。 コストと確実性を検証

比較検討の過程では、大きく分けて3つの代替案が検討されました。まず検討されたのがクラウドサービスです。柔軟性は高いものの、コスト面がネックとなりました。

熊谷様は次の様に話します。

「当社のRPAは24時間フル稼働が前提です。クラウドの従量課金で月間約730時間を使い続けると、ランニングコストが膨大な額になります。試算の結果、リモートPCアレイのような『買い切り型』の資産を持つ方が、圧倒的にリーズナブルであることが分かりました。」



BIPROGY株式会社
情報システムサービス部 企画室
企画二課 熊谷 友里氏(左)
企画二課 谷 小芳氏(中央)
シニア・スペシャリスト 佐藤 哲也氏(右)



企業名 BIPROGY株式会社
設立 1958年3月29日
従業員数 8,362名
所在地 東京都江東区豊洲1-1-1
事業内容 クラウドやアウトソーシングなどのサービスビジネス、コンピュータシステムやネットワークシステムの販売・賃貸、ソフトウェアの開発・販売および各種システムサービス

<https://www.biprogy.com>

次に、小型PCを並べる案も浮上しました。しかし、100台を超えるPCのACアダプタや煩雑な配線を管理することは現実的ではありません。ラックマウントが困難なため、データセンターでの運用課題もありました。

最後に検討されたのがサーバー上での仮想マシン（VM）構成です。しかし、物理ハードウェアの煩雑な管理コストが懸念されました。最終的に、「1人1台（1カートリッジ1ユーザー）」という物理PCの独立性を維持できるリモートPCアレイが、最もシンプルかつ確実な選択肢であるとの結論に至りました。

評価のポイントはPC集約による集中管理と、遠隔操作可能な電源管理

様々な製品検討を経て、最終的に「リモートPCアレイ」が選定されました。選定のポイントとして、情報システムサービス部 企画室 シニア・スペシャリスト 佐藤様は以下の様に評価しました。

「各PCが1つの筐体にまとまっているため、集中して管理できることが特に大きなポイントです。また、以前利用していた製品と比較して、CPU性能が大幅に向上されました。リモート

PCアレイはWindows 11を快適に動作させるのに十分なパワーを持っており、RPAの処理スピード向上も実現されました。」

また、電源管理機能の充実も大きな評価ポイントでした。

「リモートPCアレイはハードウェアレベルでの制御ができます。OSの状態に依存せずネットワーク経由で電源のON/OFFや強制再起動ができるため、万が一のフリーズ時も即座に復旧できる安心感があります。」（熊谷様）

さらに、冗長性とリスク分散の観点でもメリットがありました。リモートPCアレイは「1カートリッジ1ユーザー」で完全に独立しているため、障害の影響範囲を最小限に抑えられる点が、24時間稼働を支えるインフラとして高く評価されました。



BIPROGY株式会社
情報システムサービス部
企画室 シニア・スペシャリスト
佐藤 哲也 氏

150台のRPA環境が24時間365日安定稼働

こうして、本番環境用として120台、検証用として30台、計150台のRPA専用PCがリモートPCアレイ上で稼働しました。

「各PCがデータセンターのラックに集約され、1つの筐体にまとまっているため、集中管理することができます。また、電源のON/OFFや強制再起動が遠隔操作で可能となっているので、物理的な管理負荷が格段に軽減されました。」

と佐藤様は満足感を示します。

導入時のアセンテックの対応について、熊谷様は次のように話します。

「導入初期、1台のデバイスでファームウェアに関連する不具合が発生した際も、アセンテックのサポートチームが迅速に対応してくれました。レスポンスが早く、技術的な裏付けを持って相談に乗っていただけたため、非常に心強かったです。」

情報システムサービス部 企画室 企画二課 谷様も、その柔軟な対応に感謝を述べます。

「検証機の貸出から本番環境の構築まで、非常にタイトなスケジュールでしたが、こちらの要望に合わせて柔軟に動いていただきました。」

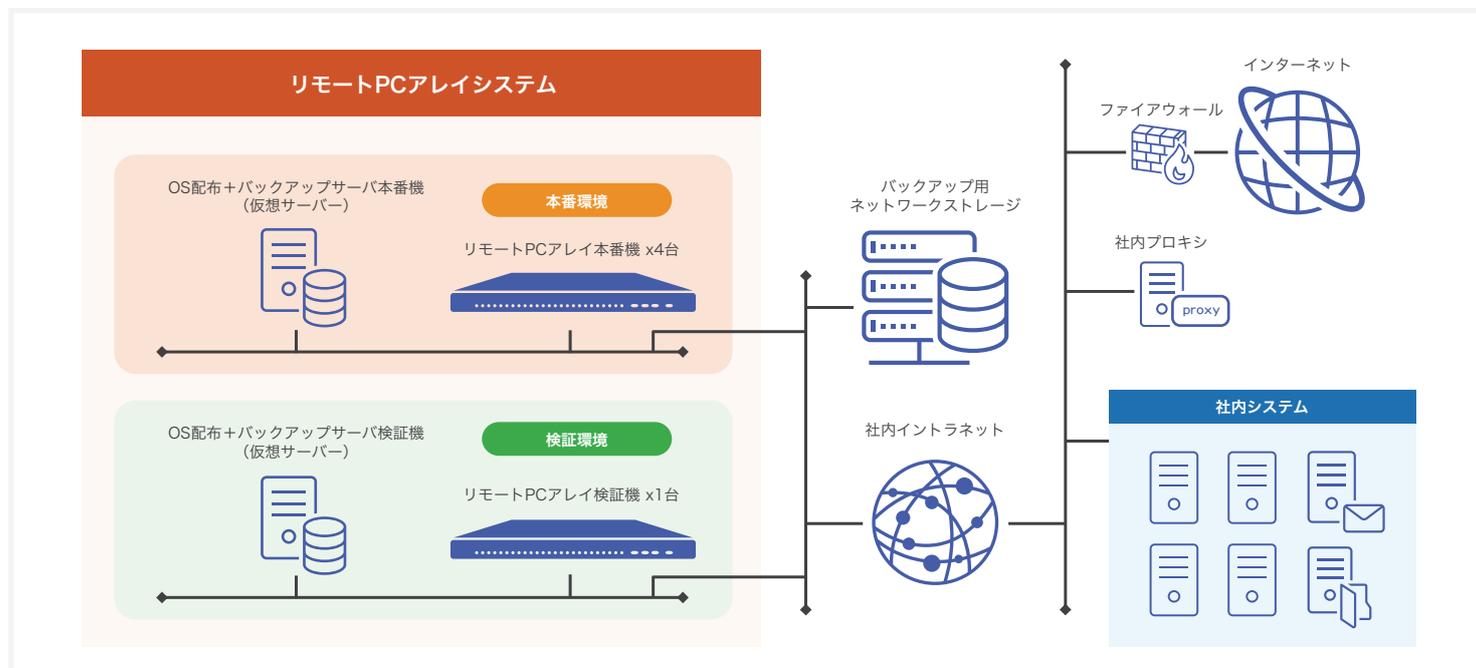
最後に今後の展望について、佐藤様は次の様に語りました。

「すでに導入したカートリッジの空きが残り数台となるほど、社内からのRPA利用ニーズは高まっています。近いうちに追加増設を検討させていただきたいと思います。」



BIPROGY株式会社
情報システムサービス部
企画室 企画二課
谷 小芳 氏

システム構成図



アセンテック株式会社

Ascentech K.K.

〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町3 大東ビル9F
TEL : 03-5296-9331 (代表) FAX : 03-5296-9332
E-mail : eigyo@ascentech.co.jp

www.ascentech.co.jp

※本件に掲載する社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。